

d'une manière adj. と *de manière adj.*

谷口 千賀子

0. はじめに

d'une manière adj. と *de manière adj.* は、事行の様態を表す手段として用いられる。これらはしばしば様態を表す *-ment* の副詞の言い換え表現として取り上げられるが、

- 1) Paul a *sottement* répondu à la question de Marie.

Paul a répondu *d'une manière sotte* / *de manière sotte* à la question de Marie.

-ment の副詞と特に *d'une manière adj.* において、両者が必ずしも等価でないことは谷口 (1997, 1998, 1999) で言及したとおりである。

ところで、我々の調査によると、次のように *d'une manière adj.* よりも *de manière adj.* を用いるほうが自然だという場合もあり、

- 2) Je t'expliquerai ? *d'une manière plus détaillée* / *de manière plus détaillée*.

この二つの表現手段の間にはなんらかの使い分けがあると考えられる。限定辞 *une* の有無だけが両者の違いであるが、このことが両者の使い分けにどのように影響しているのだろうか。

無冠詞名詞については、ゼロ冠詞の概念を用いた ANSCOMBRE (1986), PICABIA (1986) など、主に目的語位置に現れる無冠詞名詞の研究が知られている。本稿では、「前置詞＋無冠詞名詞」の形態における無冠詞名詞の価値に注目し、副詞的表現 *de manière adj.* の特性を考察する。

まず無冠詞名詞に関するこれまでの記述と ANSCOMBRE (1986) のゼロ冠詞論を概

観し(1章),ゼロ冠詞の概念を用いて無冠詞名詞の解釈が *de manière adj.* の価値をいかに決定しているか仮説をたて(2章),コーパスの観察を通して *de manière adj.* の特性を見る(3章)。

1. 無冠詞名詞に関するこれまでの記述

1-1. GREVISSE (1986), LE GOFFIC (1993), RIEGEL (1994)

GREVISSE (1986) では、普通名詞が無冠詞で用いられるのは、後置された同格名詞・属詞、呼びかけ、他の名詞の特性を表す補語、曜日や月の名前、動詞句や前置詞句などの成句で用いられる名詞、諺の中で用いられる名詞、列挙、語そのものを提示、揭示、作品タイトル、住所などを表す場合、とされているが、今回対象としている「前置詞＋無冠詞名詞」が副詞的に用いられる場合については何も触れられていない。

一方、LE GOFFIC (1993) では、「前置詞＋無冠詞名詞」が副詞的な用法を持つこと⁽¹⁾を、RIEGEL (1994) においては、「前置詞＋無冠詞名詞」一般について、名詞が特定の指示対象を持つ場合と持たない場合のあることが指摘されている⁽²⁾。*de manière adj.* の存在を見れば「前置詞＋無冠詞名詞」が副詞的価値を持ちうるのは言うまでもないが、副詞的価値を持つ「前置詞＋無冠詞名詞」の形態に含まれる名詞が特定の指示対象を持つのか持たないのかについては明確な記述はない。

1-2. ANSCOMBRE (1986) のゼロ冠詞論

ANSCOMBRE (1986) のゼロ冠詞論については、青木 (1988) で詳しい解説がなされているが、ゼロ冠詞の基本的な考えは以下のとおりである。

ANSCOMBRE (1986) は、無冠詞名詞を古フランス語での限定辞の省略の名残または文体的問題とみなす説を退け、無冠詞名詞が用いられる場合には、ゼロ冠詞と呼ぶ限定辞の作用していることがあると捉える (pp. 7-10)。

まず ANSCOMBRE (1986) では、主に動詞句の中で用いられる無冠詞名詞について説明を試みている。名詞には行為の結果を表すもの *nom résultatif (ex. poli)*、自然な行為

の終結を含意するもの *nom cyclique* (ex. *polissage*), 行為自体とその自然な終結の両方を含意するもの *nom cyclique résultatif* (以下 *Ncr. ex. finition*)があるとし、動詞句の中で用いられる無冠詞名詞のほとんどはこの *Ncr* のタイプのものであることを示している。さらに *Ncr* は含意する事行の生起の期間 *espace discursif temporel* を形成し、同時に事行の自然な終了(外的な要因によって中断されるのではなく行為の結果として終了すると捉えられるもの)をも含意するという。このように、事行の展開とその結果を想起させるのがゼロ冠詞をともなう名詞の特徴であると説明する (p. 10-15)。

1-3. ANSCOMBRE (1986, 1991) による「前置詞+無冠詞名詞」の特性

ゼロ冠詞をともなう名詞が事行の成立とかかわっていることをもとに、ANSCOMBRE (1986, 1991) は動詞句以外で用いられるゼロ冠詞付き名詞の説明をも試みている。「前置詞+無冠詞名詞」の形態においても、名詞は事行の結果とかかわっていると解釈できる。

3) Cette entreprise vend ses produits *à perte* / **à bénéfice*.

(ANSCOMBRE (1991), p.25)

この例では、*à perte* は販売の質的結果を示し、*vendre à perte* は損失のあることが予想されるような販売と解釈される。これに対して *vendre à bénéfice* が言えないのは、我々の社会ではもともと販売に利益のあることが自明のことだからである。

それゆえ、次の例のように、自明のことを表す名詞であっても、形容詞などを伴うことによってあらたな特性を付与すれば容認可能となる。

4) Pierre marchait *à petits pas* / *à grands pas* / *à pas de loup* / *à pas comptés* / *à pas feutrés* / **à pas*. (ibid., p.31)

さらに、以下の例のように、同じ構文で限定辞をともなう場合と無冠詞の場合とが競合するように見えるときにも、

5) Pierre a été condamné *pour un vol de l'étalage* / *pour vol à l'étalage*.

(ibid., p.32)

限定辞 *un* をともなう場合には実際の犯行を、無冠詞の場合には犯行結果の罪状と解釈

されるという。

また、「前置詞＋無冠詞名詞」が用いられる場合には、事行にはある程度の時間的幅を持って展開することが求められるようである。たとえば、次の例では、

6) Max a mené ce projet *à terme*. (*ibid*, p.30)

事行は mener la réalisation de ce projet と解釈でき、また *à terme* 自身も時間的幅のあることを含意する表現である⁶⁾。*à terme* は事行の終了点を表すが、その終了点はある程度の時間的幅を持った事行の自然な終了点 le point d'achèvement naturel du déroulement processifであることを示す。

つまり、「前置詞＋無冠詞名詞」はある程度の時間的幅を持って展開する事行の自然な結果とかかわっているのである。

ANSCOMBRE はあらゆる無冠詞名詞にゼロ冠詞の存在を認めているわけではない⁵⁾、無冠詞名詞の価値を統一的に説明しようとした点で評価できる。このゼロ冠詞の概念は *de manière adj.* の価値の説明にも応用できるであろうか。

2. d'une manière adj. と de manière adj. の場合

2-1. d'une manière adj. の指示対象

d'une manière adj. における *manière* は、谷口 (1998, 1999) でも見たように、事行の遂行にともなうなんらかの具体的な態度や姿勢、様子を示していると解釈することができる。たとえば、

7) Salez *légèrement* / **d'une manière légère*. (谷口 (1999), p.106)

8) Max aime Léa *ardemment* / *d'une manière ardente*. (*ibid*, p.107)

7) では、*légèrement* が単に塩の量を表しているのに対して、*d'une manière légère* では同様の解釈は不可能であり、あえて解釈するならば「羽のようにふわふわと踊りながら塩を振る」としか捉えることができない。8) では *ardemment* が *aimer* という感情の程度を表しているのに対して、*d'une manière ardente* は *aimer* を *dynamique* な肉体的行為と解釈させ、その行為の様態を表していると捉えることができる。限定辞 *une*

をとまなう場合にはこのように、事行の遂行と同時に展開している具体的な態度や姿勢、様子を想起させ、その態度や姿勢、様子がどのようなものであるのかが形容詞によって表されているのである。

したがって、谷口 (1997) でも指摘しているように、事行と同時生起ではない、つまり原因や結果を表すような *-ment* の副詞は *d'une manière adj.* で言い換えることはできない。

9) La bombe, en principe, ne peut pas exploser *accidentellenent* / **d'une manière accidentelle*. (谷口 (1997), p.84)

10) Le policier a blessé *mortellement* /* *d'une manière mortelle* le manifestant. (*ibid.*, p.85)

2-2. *de manière adj.* の指示対象

de manière adj. は名詞 *manière* の価値を残しつつ、修飾限定も受ける⁹⁾という点で ANSCOMBRE が対象とするゼロ冠詞付与の可能な表現手段であるとみなすことができる (注(4) 参照)。1 で見たゼロ冠詞付き名詞の捉え方を *de manière adj.* の解釈にも導入するならば、*de manière adj.* の形態においての *manière* も事行の結果を含意していると仮定することができるだろう。

しかし以下の例が示すように、事行の結果を表す *-ment* の副詞は *de manière adj.* でも言い換えることができない。このことから、*de manière adj.* もまた *d'une manière adj.* と同様に、事行の遂行にかかわる表現手段であると考えられる。

11) Le policier a blessé *mortellement* /* *de manière mortelle* le manifestant.

では *de manière adj.* はどのように事行の結果とかかわっているのでしょうか。注(5)でも指摘したように、*de manière adj.* では形容詞の付与が必要不可欠である。これは例(3), (4) の場合と同様に、ある事行を遂行するのに何らかの様態の存在は自明のことだと判断できるからである。それがどのような様態であるのかを限定するのが形容詞の役割である。事行の遂行にかかわる様態を示すという点では一見 *d'une manière adj.* と相違ないように思われる。では *de manière adj.* と *d'une manière adj.* とでは何が異な

るのであろうか。次の例を見てみよう。

- 12) L'athéisme, la critique rationnelle de toute religion ne suffisent-ils plus en U.R.S.S. à convaincre des générations éduquées *de manière socialiste*. (CARRERE D'ENCAUSSE, H. (1978), *L'Empire éclaté*, in Frantext)
- 13) Pourquoi avais-je parlé *de manière si stupide et grossière* d'un village français ? (MODIANO, P. (1975), *Villa triste*, in Frantext)

インフォーマントによると、12) では *socialiste* としての理論を獲得するための教育を受けること、13) では *je* の語った内容が結果として *stupide* であり *grossière* であるといみなされるということを示しているという。つまり *de manière adj.* は事行が遂行された結果、形容詞によって表されるような状態になる、あるいは話者によってそのように判断される状態に至る過程のあることを示しているのである。

ところで *de manière adj.* を用いる場合、動詞はかならずしも *dynamique* なものである必要はなく、少数ながら *de manière adj.* が *non-dynamique* な動詞とともに用いられている例も観察される。

- 14) La langue est anormalement plissée. Si elle l'est *de manière diffuse* et que les sillons encochent les bords, il s'agit d'une langue scrotale, (...). (*Encyclopédie Médicale Quillet* (1965), in Frantext)

ここでも *de manière diffuse* は、しわがなんらかの過程を経て最終的に広がった状態で確認されるということを表しているのである。

3. *de manière adj.* と客観性

2 で見たように、*d'une manière adj.* は事行の遂行と同時に展開している具体的な態度や姿勢、様子を、*de manière adj.* は最終的に形容詞によって示されるような状態になる、あるいはそのような状態と判断されるような状態に至るまでの過程のあることを表していると考えられる。

ところが次の例で、

- 15) Nous nous trouvions dans l'entrée, au pied de l'escalier, quand le Westminster a sonné de nouveau mais *de manière plus incohérente et brutale* que la première fois, si bien que j'avais à l'esprit l'image d'un pianiste fou tapant des poings et du front sur son clavier.

(MODIANO, P. (1975), *Villa triste*, in Frantext)

sonner de manière plus incohérente et brutale には、sonner が何らかの過程を経て incohérent et brutal とみなされる状態になるという解釈はあてはまらない。

インフォーマントによると、ここでは *d'une manière adj.* を用いることも可能であるが、*de manière adj.* を用いる場合と解釈の違いが見られるという。谷口 (1999) でも指摘したように、無生物主語とともに *d'une manière adj.* が用いられると、主体が擬人化され、あたかも意思を持って行動しているかのように捉えられる。15) においても *d'une manière plus incohérente et brutale* とすれば、ウェストミンスターの鐘が意思を持って incohérent et brutal な様子で鐘を鳴らしていると解釈される。しかし *de manière adj.* を用いる場合には、incohérent et brutal はウェストミンスターの鐘の音 (sonner の結果現れたもの) に対する話者の客観的な判断とみなされるようである。事行 sonner の発生時の状況を考慮した上で、sonner の結果 (鐘の音) が incohérent et brutal だと捉えられているのである。

また、sonner が何らかの過程を経て incohérent et brutal という状態になるという解釈があてはまらないのは、無生物主語を有していることも原因であろう。ある過程を経て何らかの結果に至るためには、結果状態に向かうという意思性が必要である。無生物主語の場合、擬人化される場合を除いて、その意思性を確認することは不可能である。無生物主語をとまなう際には、事行発生時の状況 (ウェストミンスターの鐘が鳴るとき) の状況が事行発生の結果に対して話者にある判断を導かせる過程 (鐘の音を incohérent et brutal なものと判断するに至らせる過程) となっているのである。

コーパスを観察すると、*de manière adj.* が程度を表していると解釈できる例が見られるが、これもこの形態が事行発生時の状況全体から導かれる話者の客観的判断を示すという性格に由来するものと思われる。

- 16) Dans un état où le peuple soviétique est devenu une réalité, la connaissance du russe, langue commune, peut être exigée, et est exigée *de manière croissante* pour l'accès à tous les postes d'encadrement, même à un niveau médiocre.

(CARRERE D'ENCAUSSE, H. (1978), *L'Empire éclaté*, in Frantext)

de manière croissante は être exigé という事行が発生する状況の観察をととして下された話者の事行に対する程度判断と解釈でき、やはり事行発生にかかわる状況が事行に対する話者の判断を導くこととなる。この際、*de manière adj.* はもはや事行 être exigé 自体の結果と直接かかわっているのではなく、事行の発生そのものに対する話者の客観的判断しか表さなくなる。しかしながら事行の発生状況の観察を行うということは、あらかじめ事行発生の事実の存在が前提となっているということであり、間接的に事行の結果状態とかかわっているとみなすことができるであろう。

興味深いことに、我々のコーパスでは、*de manière adj.* が程度を表していると判断される場合、そのほとんどが無生物主語を有している。

以上のことから、*de manière adj.* は事行がある状態に至るように展開しているだけでなく、事行発生時の状況から導かれる話者の客観的判断をも示すことがわかる。いずれにせよ事行の結果と直接・間接的に結びつくものであり、事行の展開中に見られる様態を示す *d'une manière adj.* とは異なっている。

したがって冒頭の 2) の例も、

17)(=2) Je t'expliquerai *de manière plus détaillée*.

expliquer の結果、つまり説明の内容、がより詳細な状態だと捉えられるわけである。ここで *d'une manière détaillée* が難しいのは、expliquer の遂行に要する態度や姿勢自体が détaillé であると判断することが難しいからであろう。détaillé であると判断するのはあくまでも説明された内容でしかない。

このように *d'une manière adj.* が事行の展開過程とかかわる表現であるならば、*de manière adj.* は事行の結果に直接・間接的に関係する表現なのである。

4. まとめ

冠詞に代表される限定辞は名詞によって示される指示対象を現動化し、無限定の場合には概念のみを表すというのが限定辞の一般的な捉え方である。しかし *d'une manière adj.* と *de manière adj.* を説明するとき、この捉え方だけでは不十分である。

ANSCOMBRE (1986, 1991) のゼロ冠詞論では、主に動詞句の中で用いられる無冠詞名詞の分析から、無冠詞名詞が事行の結果にかかわるアスペクト的価値を持っていることを示している。さらに無冠詞名詞が動詞句以外に現れる場合にも、このゼロ冠詞の解釈が有効であることを示し、その機能の一貫性を証明した。

我々は、このゼロ冠詞の概念を導入することによって、*de manière adj.* の機能を考察し、*d'une manière adj.* と *de manière adj.* の解釈の違いを示すことを試みた。限定辞 *une* をともなう *d'une manière adj.* が、事行の展開過程で現れる何らかの様態に対する性質付与を行っているのに対して、*de manière adj.* は事行の結果にかかわる状態（客観的事実または話者の判断）を表しているのである。

このことから 1) での *de manière sotte* も、

19)(=1) Paul a répondu *de manière sotte* à la question de Marie.

答えた結果、つまり答えそのものがばかげたものであったということを暗示している。

この 1) の例は *d'une manière adj.* を用いて表すこともできるが、

20) Paul a répondu *d'une manière sotte* à la question de Marie.

(MOLINIER (1985), p.326)

これまでの我々の定義に基づけば、*d'une manière sotte* と *de manière sotte* とでは解釈が異なることになるのは容易に想像することができる。*d'une manière adj.* は事行の展開にともなって現れる何らかの具体的態度や姿勢、様子を表しているのであるから、*d'une manière sotte* は *répondre* という事行の展開している過程に現れる様態に対する評価付けと言うことができ、その結果生ずる「ばかげた答え」はあくまでも聞き手によって当然予想される結果（話者もその予想を期待している）に過ぎない。

de manière adj. が事行の結果と結びついているという性質は、無冠詞の *manière* を

用いたその他の表現 (*de manière que ind / sub.*, や *de manière à inf.*) の用法を説明する際にも適用できるのではないかと考えられる。この点に関しては稿をあらためて論じたい。

注

- (1) LE GOFFIC (1993), § 297 : (*à côté, à genoux, après coup*, etc.) Le GPrép de ce type sont facilement (mais sans nécessité) considérés comme des adverbess ou des "locutions adverbiales".
- (2) RIEGEL (1994), pp.166-167 : Certaines prépositions introduisant un complément de phrase (particulièrement *à, avec, sans, avant, après*) sont suivies d'un nom sans déterminant, surtout lorsque ce nom n'est accompagné d'aucune expansion et qu'il est pris dans sa plus grande généralité : (···) *Il s'avance avec lenteur* (mais *avec une lenteur calculée*) - *Il s'agit sans scrupules* (ou *sans scrupules excessifs* mais *sans le moindre scrupule*) - *avant guerre* (mais *avant la guerre de 14*) ; *par avion* ; *par plaisanterie* ; *par terre*. (···) En résumé, l'absence de détermination apparaît tantôt en rapport avec une détermination référentielle forte (···), tantôt au contraire comme la marque d'actualisation incomplète du nom, le GN ayant alors une valeur attributive et non référentielle (···).
- (3) à *longterme* や à *courtterme* が可能であることからわかる (cf. ANSCOMBRE (1991), p. 31).
- (4) 動詞句に含まれる無冠詞名詞の中でも, *faire vinaigre*, *crier grâce* など, "*Vinaigre !*", "*Grâce !*" といった *formule* を基に形成されたもの, また *promettre monts et merveilles*, *chercher noise* などのように名詞自体の意味が不透明で, 構文変形 (受動化) や修飾語 (限定辞や形容詞) の付与ができないものを除外するとしている (cf. ANSCOMBRE (1986), pp.6-10).
- (5) より厳密に言うならば, 修飾限定を受けなければ非文となる。

*Paul a répondu *de manière* à la question de Marie.

これは, 事行を成立させるのに何らかの様態が想定されるのは自明のごとであり, その様態がどのようなものかを述べなければならないからであると考えられる。

参考文献

- ANSCOMBRE, J-Cl. (1986) : "L'article *zéro* en français : un imparfait du substantif ?", *Langue Française*, 72, Larousse, Paris.
- (1991) : "L'article *zéro* sous préposition", *Langue Française*, 91, Larousse, Paris.
- 青木 三郎 (1988) : 「J-Cl. ANSCOMBRE のゼロ冠詞論——その解釈と再解釈」, 『フランス語学研究』, 22, 日本フランス語学研究会, pp.69-81.
- GREVISSE, M. (1986) : *Le bon usage*, 12^e édition, Duculot, Paris.
- LE GOFFIC, P. (1993) : *Grammaire de la phrase française*, Hachette, Paris.
- MOLINIER, Ch. (1985) : "Remarques sur une sous-classe d'adverbes en *-ment* orientés vers le sujet et leurs adjectifs sources", *Linguisticæ Investigationes*, IX-2, pp.321-341.
- PICABIA, L. (1986) : "Il y a démonstration et démonstration : réflexion sur la déterminant de l'article *zéro*", *Langue Française*, 72, pp.80-101.
- RIEGEL, M. et al. (1994) : *Grammaire méthodique du français*, PUF, Paris.
- 谷口 千賀子 (1997) : 「*d'une manière adj.* の使用上の制約について」, 『年報・フランス研究』, 31, 関西学院大学フランス学会, pp.81-92.
- (1998) : "Le mécanisme d'interprétation de "*d'une manière adj.*"", 『年報・フランス研究』, 32, 関西学院大学フランス学会, pp.69-80.
- (1999) : 「*-ment* の副詞と *d'une manière adj.* の機能領域」, 『年報・フランス研究』, 33, 関西学院大学フランス学会, pp.99-111.

(文学部非常勤講師)